

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

マレーシアでは利上げ打ち止め観測も(Asia Weekly (7/5~7/9))

～インドネシアは据え置き継続も、年末にかけて利上げの可能性が残る～

発表日:2010年7月12日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

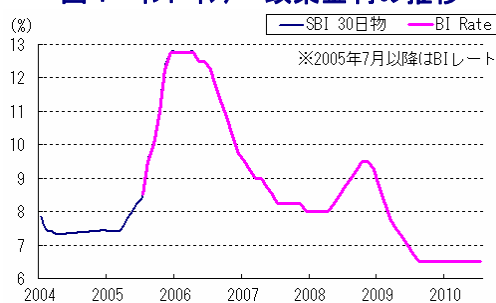
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/5 (月)	(インドネシア) 金融政策決定会合 (政策金利)	6.50%	6.50%	6.50%
7/6 (火)	(フィリピン) 6月消費者物価 (前年比)	+3.9%	+4.3%	+4.3%
	(前月比/未季調)	+0.2%	+0.4%	▲0.2%
	(豪州) 金融政策決定会合 (政策金利)	4.50%	4.50%	4.50%
7/8 (木)	(豪州) 6月失業率 (季調済)	5.1%	5.2%	5.1%
	(マレーシア) 5月鉱工業生産 (前年比)	+12.5%	+10.5%	+10.7%
	金融政策決定会合 (政策金利)	2.75%	2.75%	2.50%
	(台湾) 6月輸出 (前年比)	+34.1%	+45.8%	+57.9%
	6月輸入 (前年比)	+40.4%	+45.9%	+71.4%
7/9 (金)	(韓国) 金融政策決定会合 (政策金利)	2.25%	2.00%	2.00%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インドネシア] ～物価は目標域内に留まり利上げを見送るも、10-12月期には実施が予想される～

5日、インドネシア銀行は定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利(BIレート)を11回連続で6.50%に据え置くことを決定した。好調な内・外需が景気を牽引し、6月の消費者物価は食料品価格の上昇もあって前年同月比+5.05%まで上昇したが、コア物価は同+3.97%と当局の定める目標域(4.0~6.0%)を下回っている。欧州問題の影響は懸念されるが、同国では海外資金の流入による内需押し上げが続いており、政府は今年の経済成長率は前年比+6.0%近くに達し、2011年には同+6.0~6.5%まで加速することで、次第に物価上昇圧力が高まるとみている。なお、2010年中の物価上昇要因は電力料金の引き上げなどに留まることから、当面は利上げの必要性は低いとの認識である。しかし、当局は海外資金の流入に伴うルピア上昇に対して為替介入を行っていることから、過剰流動性の懸念がある中、足元の内需の強さを鑑みればダイヤモンドプル型の物価上昇圧力も避けられないであろう。したがって、インフレ防止の観点から、遅くとも10-12月期には利上げが必要になると予想する。

図1 インドネシア 政策金利の推移



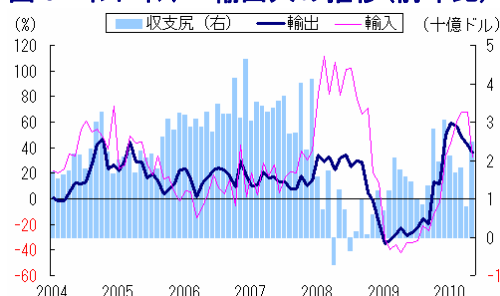
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 インドネシア 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 インドネシア 輸出入の推移(前年比)



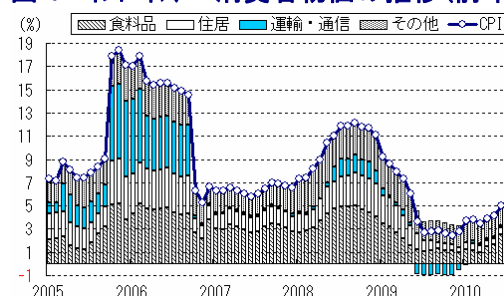
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 インドネシア 為替相場の推移



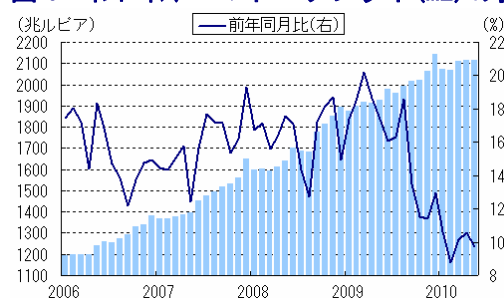
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 インドネシア 消費者物価の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 インドネシア マネーサプライ(M2)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ~3回連続で利上げ。先行きの物価は落ち着いた推移が予想され、利上げは小休止を予想~

8日、マレーシアネガラ銀行は定例の金融政策決定会合で政策金利を25bp引き上げて2.75%とし、同時に変動幅を2.50~3.00%とする決定を行った。同行は今年3月、東南アジアではベトナムに次いで世界金融危機後2番目の利上げを行っており、今回で3回連続の利上げとなる。ここでは、欧州問題の不透明感などはあるものの、先行きもアジア経済の回復による輸出増加や、大規模景気対策による内需拡大で緩やかな拡大が続くとの見通しを示した。また、5月の消費者物価は前年同月比+1.6%と穏やかに推移しているものの、景気拡大に伴うディマンドプル型物価上昇圧力や、公共料金引き上げなどを受けて徐々に上昇するとみている。ただし、先行きの物価は比較的落ち着いた推移が期待されるとしており、しばらくは現行水準で据え置かれる可能性が高まっている。

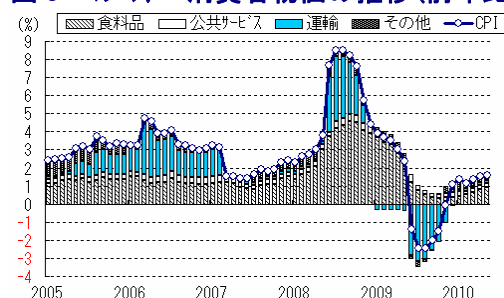
なお、同日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+12.5%と前月(同+10.7%)から加速し、前月比も拡大している。5月の輸出額がアジア向けを中心に拡大しており、国内の自動車販売台数も増加基調が続くなど内需の堅調も生産を押し上げている。中国経済の減速懸念など、アジア経済を取り巻く環境も変化の兆しが出ているものの、アジア全体では引き続き緩やかな景気拡大が見込まれ、同国の生産の押し上げに繋がるものと期待される。

図7 マレーシア 政策金利の推移



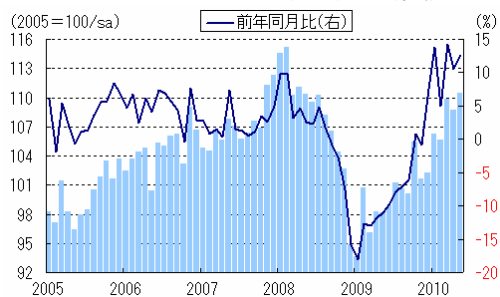
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 マレーシア 消費者物価の推移(前年比)



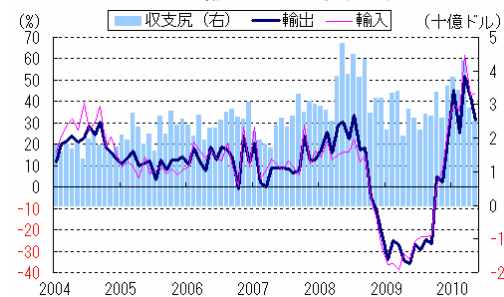
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 マレーシア 鉱工業生産の推移



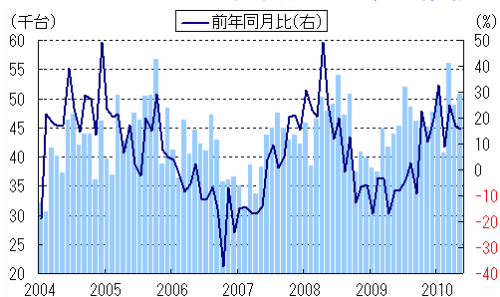
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 マレーシア 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 マレーシア 自動車販売台数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上